



尾を引くハレー彗星（昭和60年12月31日、午後6時40分～48分、岡豊町・川添晃さん撮影）

だれにもできる○○

ハレー彗星の 見方、見つけ方

ハレー彗星が七十六年ぶりに地球に帰ってきます。

昨年十一月二十七日、第一回目の地球接近（九千三百万キロ）をしました。その後は、普通の双眼鏡でだれでも観望できる明るさになりました。ハレー彗星は人間の一生で、一回しか見ることのできない星だと言われています。このチャンスをぜひ見逃さないでください。

しかし、望遠鏡や双眼鏡があっても広い空のどこに彗星があるのかわからず、やきもきした人も多いようですので、見方をご紹介します。

今、ハレー彗星はスピードを上げ、秒速六十キロくらいの速度で太陽に接近しています。太陽に一番近づく（近日点）のは二月九日

です。しかしその前後は、彗星は太陽の向こう側にあるため、残念ながら見ることはできません。

三月に入れば太陽を離れ光度も増し、尾もでき星化粧を調べ、再び地球の軌道に接近し、一番接近するのは四月十一日（六千二百万キロ）です。三月、四月は、月の明るい時期を除き観望の好期で、肉眼または双眼鏡でだれでも観察することができます。

見つけ方は、下の星座図にハレー彗星の天空での動きを記入してありますので、実際の星空とにらみ合わせますとすぐ確認することができます。また、観察する場所は家の近くで南の空の開けた暗い所、市内の海岸など安全と寒さに注意して、一生に一度のハレー彗星をぜひ観望してください。

田村・猪野吉保（県立芸西天文学習館指導員）

月 日	見える時刻	見える空	星座	明るさ	観望の要点
2 月 中	1月下旬から2月中は、太陽の向こう側にあるため、どの地点からも見えません。				
3 月 10日～21日	夜明け前	南東の空	いて座	4等	15日～21日が一番の観望好期、頭を東に尾は西上方に引いて見えます。なお今回は南の空ですので注意してください。
4 月 5日～15日	夜中から夜明けにかけて	南東から南の空へ	おおかみ座 ケンタウルス座	4等～5等	11日は第2回地球接近（六千二百万キロ）24日は満月ですが月食ですので、その時間帯（午後9時10分～10時15分）に見えます。

